

# 公 民 [ 倫理 ] ( 100 点 50 分 )

2011 年 9 月 12 日 ( 月 ) 3 限 実施  
前期期末考査  
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 ABCD 組  
Edited by K.Kataoka

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 4 桁で記入してマークを忘れないこと。  
例 3 年 D 組 1 番      0401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

# 倫 理

( 解答番号 [ 1 ] ~ [ 50 ] )

第 1 問 次の文章を読み下の問い ( 問 1 ~ 問 6 ) に答えよ。( 配点 20 )

アリストテレスは、人間の形相を魂ととらえ、さらに「動物のうちで人間だけが理性 ( ロゴス ) をもつ」として、人間の本質を理性に求めた。したがって、魂・理性の本来のあり方を現実化することが、人間が人間として完成し、人間にとっての善と幸福が実現することとなる。彼も、ソクラテス、プラトンと同様に、徳を魂・理性のすぐれたあり方としてとらえたが、人々の現実の行動や生き方をふまえながら、徳について体系的な考察を加え、それを勇気・節制・正義などの習性的徳 ( 倫理的徳 ) と知恵・( a )思慮などの [ 1 ] 的徳にわけた。習性的徳とは、よい行為を反復して習慣づけることによって、感情や欲望が理性の指示に従う、よい習性ができあがった魂の状態をいう。そして、感情や欲望が理性の指示に従うとは、具体的には、( b )過不足をさけて中庸 ( メソテース ) を選択することである。他方 [ 1 ] 的徳は、教育を通じて理性が十分にはたらくようになった状態であり、彼はそれを習性的徳よりも高次の徳とみなした。なかでも、日常的・実地的な関心をはなれ、理性を純粹にはたらかせ、そのこと自体を楽しむ [ 2 ] が、人間の本質を完成させ、人間に最高の幸福をもたらすと主張した。

彼はまた、人々が善と幸福をどのようにとらえて生きるかに応じて、人間の生き方を分類し、快楽を善ととらえてそれを追求する享樂的生活、名誉を追求する政治的生活、真理を知り、そのことに喜びをみいだす [ 2 ] 的生活の三つをあげたが、この分類でも、[ 2 ] 的生活を最高の生き方としている。

「人間は、本性上、[ 3 ] 的动物である」というアリストテレスの言葉は、人間は本来ともに生きる存在であり、[ 3 ] という共同体のなかでのみ生活できるという考え方を示している。彼は、習性的徳のなかでも正義と [ 4 ] を、共同体で生活するうえで欠かせないものとして重視した。彼は、正義を【 A 】という広義の正義 ( 全体的正義 ) と【 B 】という ( c )狭義の正義 ( 部分的正義 ) に大別した。

しかし、正義の徳をそなえ正義に即して生きていても、ともに生きる人間にとっては、それだけでは十分でない。彼は「友人たちには正義は必要ないが、正義の人たちにはさらに [ 4 ] が必要である」と述べ、人々を内面的につなく [ 4 ] を正義以上に重要視した。そして、真の [ 4 ] は、対等な関係のなかで、たがいに相手の善を願い、またそう願っていることをたがいに知っている人々の間でなりたつと説いている。

アリストテレスは、現実のさまざまなポリスを考察し、その形態 ( 国制 ) を分類した。それによると、よいポリスとは [ 5 ] をめざすポリスであり、それには、すぐれた一人が統治する王制、少数のすぐれた人々による貴族制、多数者が統治する共和制がある。そして、それぞれの墮落した形態として、独裁者が自分の利益だけをはかる僭主制、少数の富裕者による寡頭制、( d )大衆による衆愚制がある。

問 1 文章中の空欄 [ 1 ] ~ [ 5 ] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

[ 1 ]	〔	理性	知性
		感性	生活

「 2 ]	[	アレテー カタルシス	ブシュケー テオリア
「 3 ]	[	ルーデンス ファーベル	ポリス シンボル
「 4 ]	[	エロース アガペー	エイドス フィリア
「 5 ]	[	大衆による民主主義 哲学者による統治	契約による自然権保護 人々に共通した利益

問2 下線部(a)に関連して、思慮を意味するギリシア語の用語として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 6 ]

アレテー                  エウダイモニア                  プロネーシス                  エピステーメー

問3 下線部(b) に関して、中庸の例として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 7 ]( 2007 年センター本試験より )

金銭や財に関して、必要以上に惜しんだり浪費したりしないよう習慣づけることで、おおらかな人になる。

極端な快楽と極端な禁欲を避けながら、静かな修道生活を送ることで、心の平安を得ることができる。

神の知を持っていないと自覚することで、最大の無知から解放され、人間にふさわしい知恵を得ることができる。

恐れるべきものとそうでないものを正しく判断できるように知的訓練を積むことで、勇気のある人になる。

問4 空欄【 A 】【 B 】に関して、それぞれに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 8 ]

【 A 】法を守る                  【 B 】公正が実現する  
【 A 】徳の調和                  【 B 】悪と戦う  
【 A 】公正が実現する 【 B 】法を守る  
【 A 】悪と戦う                  【 B 】徳の調和

問5 下線部(c)に関して、部分的正義をあらわす記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 9 ]

名誉や財貨などを各人の功績や働きの違いに応じて配分する矯正的正義

裁判や取引などで当事者たちの利害・得失が均等になるようにする配分的正義

名誉や財貨などを各人の功績や働きの違いに応じて配分する調整的正義

裁判や取引などで当事者たちの利害・得失が均等になるようにする調整的正義

問6 下線部(d)に関して、衆愚政をあらわすギリシア語として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 10 ]

ビューロクラシー          アリストクラツィア          デモスクラツィア          ポリテイア

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～問5)に答えよ。(配点 18)

エピク羅斯は、快樂について理論的考察を加え、眞の快樂は[ 11 ]的なものであると主張した。彼は、みずから足るを知る簡素な生き方を実践するとともに、他方で、(a)迷信や死の恐怖を理論的に根拠がないものと認識することによって精神的不安や苦痛をとりのぞくことが、眞の快樂をもたらすと考え、そうした実践と理論的考察の両面を通じて実現される[ 12 ]が賢者の理想であると説いた。エピク羅斯は、公人として活動することは魂の平静を妨げるとして「[ 13 ]」と説いた。

ゼノンを創始者とするストア派の人々は、「[ 14 ]」ことが人生の目的であると主張した。その主張は、自然と人間についての独特の考え方にもとづいている。彼らは、自然全体は理性(理法、ロゴス)の支配する世界であり、人間は自然全体の一部として、自然によって理性が与えられていると考えた。人間は、自分の自然的本性である理性を自然全体の理性に合致するようにはたらかせ、同時にそれを通じて、(b)自然に反した過度の衝動である欲望・快樂などの情念を克服して(禁欲主義)、「自然と一致した魂の状態」である[ 15 ]を実現し、そのことによって「[ 14 ]」ことができると主張した。ストア派は、「自然と一致した魂の状態」が徳であり、徳が唯一の善であり、「幸福であるためには徳だけで十分である」と考えた。彼らは、徳として、思慮・勇氣・節制・正義をあげている。

ストア派は、のちの(c)自然法思想の源流の一つになった。

ストア派の考え方は、ローマの人々にもひろく受け入れられた。ローマ時代の代表的なストア派思想家としては、セネカ、エピクテトス、(d)マルクス＝アウレリウスがいる。

問1 文章中の空欄[ 11 ]～[ 15 ]に入る最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- |      |   |            |           |
|------|---|------------|-----------|
| 「11」 | [ | 享樂的        | 精神的       |
|      |   | 刹那的        | 肉體的       |
| 「12」 | [ | ミソロゴス      | アパテイア     |
|      |   | アタラクシア     | テオリア      |
| 「13」 | [ | グノーティ・サウトン | メメント・モリ   |
|      |   | キュニコス・ピオス  | ラテ・ピオーサス  |
| 「14」 | [ | 理性に従って生きる  | 隠れて生きる    |
|      |   | 理想を求めて生きる  | 自然に従って生きる |
| 「15」 | [ | テオリア       | アタラクシア    |
|      |   | ミソロゴス      | アパテイア     |

問2 下線部(a)に関わるエピクロスの思想をあらわす語として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[16]

アカデミズム          ストイシズム          アトミズム          リリシズム

問3 下線部(b)をあらわすギリシア語として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[17]

エロース          パトス          ログス          プレジール

問4 下線部(c)に関して、ストア派の自然法思想の源流に関する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[18]

自然状態に置かれた人間に、ある種の社会的傾向性を認め、この傾向性のうえに法秩序を基礎づけた。

自然的理性の光と超自然的理性の光との区別を明確にすることによって、自然の世俗的世界と超自然の啓示の世界、自然と恩寵の差異を明らかにした。

ノモスたる実定法に対し、ピュシスに基礎を置く自然法が対置されたが、これは神的形象により擬人化された宇宙的秩序を意味した。

自然全体は理性的な法の支配するポリスであり、すべての人間は自然の法のもとで平等にその市民であると主張した。

問5 下線部(d)に関して、マルクス=アウレリウスの著作の言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[19]

この石が何をしたのだ。われわれがぶつかると先を見越してよけるのが石のすべきことなのか。

大海に落とされた一滴の葡萄酒も海全体に、したがって宇宙全体に広がる。

もし叡知が我々に共通なものならば、我々を理性的動物となすところの理性もまた共通なものである。

全ての国は自然に存在する。なぜなら国は共同体の終局目的であるからである。

第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～問6)に答えよ。(配点 20)

キリスト教はユダヤ教を母胎として生まれた。ユダヤ教は、世界を創造した全知全能の存在であり、人格的存在である唯一の神ヤハウェを信じるユダヤ人の民族宗教である。

ユダヤ教の聖書はキリスト教によって(a)『旧約聖書』と位置づけられ、そこにもられた思想(ヘブライズム)は、ギリシア思想(ヘレニズム)とともに、西洋思想の源流となった。

ユダヤ人にとって大きな意味をもつできごとは、(b)エジプトからの脱出である。『旧約聖書』によると、(c)アブラハムの子孫であるユダヤ人は神との契約によって選ばれ、救いを約束された民族であった。ユダヤ人は、古くはメソポタミアで遊牧生活を送っていたが、パレスチナ地方に住むようになり、一部はさらにエジプトに移った。しかし、紀元前13世紀ごろ、ユダヤ人はエジプトで奴隷状態におちいていた。彼らは、神の命を受けたモーセにひきいられてエジプトを脱出し、約束の地 [ 20 ] をめざした。その途上、彼らは [ 21 ] でモーセを介して神と契約をむすんだ。この契約で、神は、彼らが神の意志に従うかぎり、彼らを救うと改めて約束し、神の意志を (d)「モーセの十戒」をはじめとするさまざまな (e)律法(トーラー)の形で示して、これを守るようにユダヤ人に要求し、彼らもそれを守ることを誓った。

神は、選んだ民に常にあつい関心をよせている。そのため、神は民族の歴史とかがわる。モーセの死後にパレスチナ地方を征服したユダヤ人は、紀元前11世紀末にイスラエル王国を樹立し、前10世紀の [ 22 ] とソロモン王の時代に栄えた。しかし王国はその後、南北への分裂を経て滅び、(f)ユダヤ人は他民族の支配下におかれた。

この亡国の苦難は、[ 23 ] たちによって、すでに南北分裂の時代に告げられていた。[ 23 ] たちによれば、当時のユダヤ人の社会は、ヤハウェ以外の神々に走り、まずしい同胞を虐げ、孤児・寡婦・病者といった弱者をいじめるなど、かつて抑圧されていた自分たちがヤハウェによって解放されたことを忘れて、神の民にふさわしくないあり方におちいつている。[ 23 ] たちは、そのような社会の現状を批判し、それは神にとっては国家を滅ぼすに値するものであると人々に警告していた。

問1 文章中の空欄 [ 20 ] ~ [ 23 ] に入る最も適当なものを、次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

- |      |   |              |                 |
|------|---|--------------|-----------------|
| 「20」 | [ | エデン<br>カナン   | ハラン<br>シナル      |
| 「21」 | [ | 葦の海<br>オリーブ山 | モリヤ<br>シナイ山     |
| 「22」 | [ | ダヴィデ<br>サウル  | ネブカドネザル<br>ヨシュア |
| 「23」 | [ | 使徒<br>統治者    | 哲学者<br>預言者      |

問2 下線部(a)に関して、旧約聖書のエピソードとして**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 24 ]

主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした

神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」神は言われた。「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。

第二の獣は、獣の像に息を吹き込むことを許されて、獣の像がものを言うことさえできるようにし、獣の像を拝もうとしない者があれば、皆殺しにさせた。また、小さな者にも大きな者にも、富める者にも貧しい者にも、自由な身分の者にも奴隷にも、すべての者にその右手か額に刻印を押させた。そこで、この刻印のある者でなければ、物を買うことも、売ることもできないようになった。この刻印とはあの獣の名、あるいはその名の数字である。ここに知恵が必要である。賢い人は、獣の数字にどのような意味があるかを考えるがよい。数字は人間を指している。そして、数字は六百六十六である。

主はノアに言われた。「さあ、あなたとあなたの家族は皆、箱舟に入りなさい。この世代の中であなただけはわたしに従う人だと、わたしは認めている。あなたは清い動物をすべて七つがいつ取り、また、清くない動物をすべて一つがいつ取りなさい。空の鳥も七つがいつ取りなさい。全地の面に子孫が生き続けるように。七日の後、わたしは四十日四十夜地上に雨を降らせ、わたしが造ったすべての生き物を地の面からぬぐい去ることにした。」ノアは、すべて主が命じられたとおりにした。ノアが六百歳のとき、洪水が地上に起こり、水が地の上にみなぎった。

問3 下線部(b)に関して、次のA～Cのエジプト脱出のエピソードの順番として最も適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。[ 25 ]

- A 真夜中になって、主はエジプトの国ですべての初子を撃たれた。王座に座しているファラオの初子から牢屋につながれている捕虜の初子まで、また家畜の初子もことごとく撃たれたのでファラオと家臣、またすべてのエジプト人は夜中に起き上がった。死人が出なかった家は一軒もなかったので、大いなる叫びがエジプト中に起こった。
- B モーセは、しゅうとでありミディヤンの祭司であるエトロの羊の群れを飼っていたが、あるとき、その群れを荒れ野の奥へ追って行き、神の山ホレブに来たそのとき、柴の間に燃え上がっている炎の中に主の御使いが現れた。彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているのに、柴は燃え尽きない。
- C 主はモーセに言われた。「海に向かって手を差し伸べなさい。水がエジプト軍の上に、

戦車，騎兵の上に流れ返るであろう。」モーセが手を海に向かって差し伸べると，夜が明ける前に海は元の場所へ流れ返った。エジプト軍は水の流れに逆らって逃げたが，主は彼らを海の中に投げ込まれた。水は元に戻り，戦車と騎兵，彼らの後を追って海に入ったファラオの全軍を覆い，一人も残らなかったイスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んだが，そのとき，水は彼らの右と左に壁となった。

A B C            A C B            B A C  
B C A            C A B            C B A

問4 下線部(c)に関して，アブラハムの息子の名前として最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。[ 26 ]

イサク            ヤコブ            カイン            ヤペテ

問5 下線部(d)に関して，モーセの十戒の内容として**適当でないもの**を，次の ~ のうちから一つ選べ。[ 27 ]

けがれたものを食べてはならない  
あなたには，わたしをおいてほかに神があってはならない  
あなたの父母を敬え  
盗んではならない

問6 下線部(e)に関して，律法の内容として**適当でないもの**を，次の ~ のうちから一つ選べ。[ 28 ]

レビ記            ヨブ記            創世記            出エジプト記

問6 下線部(f)に関する出来事として最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。[ 29 ]

バビロン捕囚            イェリコの戦い            カノッサの屈辱            ユダヤ戦争



第4問 次の文章A～Cを読み、下の問い(問1～問8)に答えよ。(配点 22)

A イエスはおそらく、(a)ヘロデ大王(前4没)の晩年に生まれ、後28年ころにヨルダン川で [ 30 ] から洗礼を受け、彼によって創始された洗礼運動に入った。[ 30 ] はヨルダン河畔の荒野で神の国の接近を宣べ伝え、人々に悔い改めを迫って、罪のゆるしに至る洗礼を授けていた。われわれは「悔い改めよ」と言われると、何か道徳的な意味で改心を迫られているように感ずる。しかし、[ 30 ] が求めた悔い改めは、むしろ人間の生活上の価値基準を180度転換すること、すなわち文字通りの回心にあった。当時 (b)ユダヤの支配者たち、とくに政治的・宗教的エリートたちは、彼らの生活の価値基準を、彼らが神から与えられたと信じていた [ 31 ] に置いていた。彼らによれば、[ 31 ] を守って倫理的に正しい生活をした人々がその功績によって終末のときに神の国に入れられ、[ 31 ] を守らない人々は神の国から閉め出されると確信していたのである。しかし [ 30 ] は、過去における [ 31 ] の業を誇り、それを基準にして、[ 31 ] を守らない人々、あるいはむしろ、貧しさのゆえにそれを守ろうとしても守りえない人々を差別する人間の心のありようそのものを罪と見た。

問1 文章中の空欄 [ 30 ] ～ [ 31 ] に入る最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

[ 30 ] 

[	マタイ	ヨハネ
]	ペテロ	パウロ

[ 31 ] 

[	律法	預言者
]	十戒	諸書

問2 下線部(a)に関して福音書に描かれるイエスの生誕地として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。 [ 32 ]

ナザレ            ベツレヘム            サマリア            エルサレム

問3 下線部(b)に関して、エルサレムの政治的・宗教的・社会的支配権を握る、貴族祭司層とユダヤの地方貴族・地主たちをあらわすものとして最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。 [ 33 ]

ゼロテ派            サドカイ派            エッセネ派            パリサイ派

B イエスはユダヤ人たちが待望していた神の国 神の [ 34 ] の接近を告知し、主の祈りのなかでその実現を祈るべきことを教えた。この限りにおいて、彼はユダヤ教黙示文学の世界に住んでいた。しかし、彼の宣教は独自の特色を備えている。彼にとって神の国は単に接近しているだけではなく、すでに現在の事実となっている。彼の行う悪霊追放はそのしるしとして解釈される。「わたしが神の指によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところに来たのである」。

このように神の国は、未来の事柄であると同時に現在の事実でもある、という。これは一見矛盾であるようにみえるが、イエスにとって決定的に重要なことは、人はいまや神の [ 34 ] に直面し、それを受容するか拒否するかの決断を迫られているということである。

神の[ 34 ]は人が距離をおいてその到来のときを算定したり,その光景を想像したりすることができるような事柄ではない。いまや態度決定の保留は許されない。最後の審判においては,ユダヤ民族の特権は認められない。救済の道は各人の悔い改めと信仰のみである。

しかしイエスは神の審きよりも恵みを強調する。神は慈愛に満ちた天の父として,「悪い者の上にも良い者の上にも,太陽を昇らせ,正しい者にも正しくない者にも,雨を降らせてくださる」。天にいます神すなわち聖なる超越的な神は,遠き神であると同時に,(c)「アバ」ということばで,親しく,全き信頼をもって呼びかけることができる近き神でもある。

迷い出た一匹の羊を懸命に捜し歩く羊飼,失われた一枚の銀貨を一心に捜す女,放蕩息子の帰宅を喜び迎える父親などに関する一連のたとえは,神の国は[ 35 ]として群衆に与えられることを示している。したがってイエスは,罪ゆえに神から見捨てられているとみなされていた取税人や罪人と食事をともにし,彼らに救いを約束する。

問4 文章中の空欄[ 34 ][ 35 ]に入る最も適当なものを,次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

[ 34 ] [ 啓示                      創造  
          支配                      怒り

[ 35 ] [ 純粋な恵みの賜物  
          人間の敬虔への返礼  
          功績に対する報酬  
          全くの偶然

問5 下線部(c)に関して,「アバ」の意味として最も適当なものを,次の ~ のうちから一つ選べ。[ 36]

母親が幼児を呼ぶときに使う言葉                      父親が幼児を呼ぶときに使う言葉  
幼児が母親を呼ぶときに使う言葉                      幼児が父親を呼ぶときに使う言葉

C 神の無限の恵みの賜物として神の国を約束された者は,それに対する感謝の応答として神と隣人への限りない愛を求められる。神への愛と (d)隣人への愛は不可分であり,この二重の戒めよりも大事な戒めはない。そして愛は敵にまで及ばなければならない。「敵を愛し,迫害する者のために祈れ」。こうしてイエスは,愛を徹底的に重視する結果,ときにはユダヤ教律法の規定に反する言動をも示す。[ 37 ]に病人を癒し,法的,社会的に弱い婦人の立場を考慮して離婚を禁じ,人間相互の交わりを妨げる食物規定を批判する。しかし律法に対する批判的言動はユダヤ教からみれば流神にほかならず,とうてい許容できるものではなかった。これがイエス処刑の決定的な原因になったと思われる。

イエスの死後,かつてイエスに従いながらイエスの逮捕とともに彼を見捨てた弟子たちが,復活したイエスに出会うといういわゆる顕現体験により,イエスは今も神によって生かされていると信じ,このイエスを (e)キリストと同一化して,このイエス・キリストを信仰と宣教の対象としていった。こうして,原始キリスト教が成立する。ここでキリスト教徒は,とりわけイエスの死を,[ 38 ]と信じ,この信仰をキリスト教の教理の中心に据えている。われわれはこのように意味づけられたイエスの死の背後に,罪人の罪を不問に付して彼らとともに生きたイエスの生があったことを忘れてはなるまい

問6 文章中の空欄 [ 37 ] [ 38 ] に入る最も適切なものを，次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

「 37 ]	[	過越祭	神 殿
		安息日	墓 場

「 38 ]	[	贖 罪	神の死
		不 死	古い契約

問7 下線部(d)に関して，隣人愛の例として**適当でないもの**を，次の ~ のうちから一つ選べ。 [ 39 ]

- 追いはぎに襲われてしまった人を介抱して宿屋まで連れて行く愛
- 自分の持ち物を売り払い，貧しい人々に施す愛
- 自分を憎み迫害する敵のために祈る愛
- 財産をすべて使い果たした放蕩息子をあたたかく迎え入れる愛

問8 下線部(e)に関して，キリスト(クリストス)の語の意味として最も適切なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。 [ 40 ]

- 王という意味のヘブライ語
- 油を注がれた者の意味のギリシア語
- ヤハウェは救いであるという意味のギリシア語
- 救世主という意味のヘブライ語

第5問 次の文章A Bを読み，下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 20）

A パウロがキリストの復活の信仰に目覚めたことは，律法主義の行き詰まりからの離脱を意味した。回心後の彼は，バルナバのとりなしで [ 41 ] たちと和睦したあと，アンティオキアを拠点として，小アジア，ヨーロッパ南岸への伝道旅行の途についた。彼の伝道対象は多くの (a) 異邦人 を含んでいた。第一次伝道を終えエルサレムに上ったパウロは，イエスの直弟子たちと，異邦人伝道と割礼の問題について協議し，[ 41 ] 以下の同意を得た。その後はパウロもまた迫害，妨害，入獄などの苦難に耐えながら，第二次，第三次の伝道旅行を通して，キリスト教を小アジア世界からヨーロッパに及ぶ世界宗教とした。

2世紀以後，教会は組織を整え，経典としての『新約聖書』を編纂し，ユダヤ教から受け継いだ聖書に『旧約聖書』としてキリストの準備の書としての位置を与え，ともにカノン（聖典）として採用した。さらに140年ごろローマ教会で定めた「ローマ信条」をはじめとして，信条が制定された。こうした時代から中世の教皇庁を中心とするローマ・カトリック教会成立までの初代教会を，古カトリック教会とよぶ。この教会に明確な概念規定を与え，教会確立を決定的にしたのが，カルタゴ教会の監督キプリアヌスである。彼は『カトリック教会の統一について』において，教会は地上に実現された唯一の救済機関であること，神と人とを媒介する霊的な権威は司教に与えられたものであること，を主張した。またキリストが一つ，真理が一つであるように，教会も一つであり，すべての司教は，キリストより天国の鍵を与えられた [ 41 ] の権威を受け継ぐローマの司教であると主張した。カトリックとはギリシア語 *katholikos* から出たもので，[ 42 ] の意味をもち，キプリアヌスの概念規定を象徴的に表す語として，西方ローマ教会の固有名詞となった。

古カトリック教会は教会制度の整備とともに，異端を排除しながら正統神学の確立に努めた。キプリアヌスのほかユスティノス，(b) テルトゥリアヌス，アレクサンドリアのクレメンス，オリゲネスなどの教父たちは「護教派」とよばれる。彼らは，キリストの歴史性を否定し，旧約の神と新約の神が別の神であるとする [ 43 ] 派，キリストの神性を認めないアリウス派に対して，キリストの神性と歴史性を同時に強調した教会は宗教会議を重ねて，カトリック神学と組織を固め，325年のニカイア公会議では，アリウス説を異端として退け，神の子キリストは [ 44 ] を正統と確認した。

問1 文章中の空欄 [ 41 ] ～ [ 44 ] に入る最も適当なものを，次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- |        |   |               |                 |
|--------|---|---------------|-----------------|
| [ 41 ] | [ | トマス<br>ヨハネ    | ペテロ<br>ヤコブ      |
| [ 42 ] | [ | 普 遍<br>個 別    | 統 一<br>正 統      |
| [ 43 ] | [ | 単性論<br>ネストリウス | グノーシス<br>アタナシウス |

- [ 44 ] { 創造された者であり父なる神と異質的であること  
受肉後に神性が人性を吸収して単一の性になること  
人間としての肉体と魂を有するが理性は神のロゴスであること  
父なる神と本質的に同質の神格を有すること

問2 下線部(a)に関して、異邦人の意味するところとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 45 ]

- |             |            |
|-------------|------------|
| ローマ人ではない人   | ギリシア人ではない人 |
| キリスト教徒ではない人 | ユダヤ教徒ではない人 |

問3 下線部(b)に関して、テルトゥリアヌスの言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 46 ]

- 不合理なるがゆえにわれ信ず。  
哲学は神学の婢である。  
教皇は太陽，皇帝は月。  
知らんがためにわれ信ず。

B 代表的教父アウグスティヌスによれば、人間は罪深く、[ 47 ]によらなければ善を志すこともできず、救われることもできない。神による救いは神の意志によってあらかじめ決められており、その救いは神の代理者である教会を通じてのみ与えられる。このようにして、彼は、神の絶対性とカトリック教会の権威を基礎づけた。アウグスティヌスは知恵、勇気、節制、正義のギリシアの四元徳の上位に、パウロの説く [ 48 ]のキリスト教の三元徳を位置づけた。また、彼は歴史を、「神の国」と「地上の国」の対立としてとらえ、キリストが再臨する歴史の終末に「神の国」が実現されるとする独自の歴史哲学を展開した。

中世には、西ヨーロッパの全体がローマ カトリック教会の支配下にはいり、ローマ カトリックの教義を、哲学を用いて体系化しようとする努力がなされた。当時の哲学は、教会や修道院に附属する学校（スコラ）で教授・学習されたため、スコラ哲学とよばれる。

最大のスコラ哲学者トマス＝アキナスは、信仰は理性を破壊するのではなく完成するという考え方にたって、信仰と理性の調和をはかり、[ 49 ]の哲学を用いてキリスト教の信仰を体系的に説明しようとした。また彼は、世界は神の永遠の法によって支配されており、その法を人間が理性によってとらえたものが自然法であるとし、自然法を、人間が実践するさいの第一原理であり、人間社会の根本規範であると考えた。

問4 文章中の空欄 [ 47 ] ~ [ 49 ]に入る最も適当なものを、次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

- |          |     |     |
|----------|-----|-----|
| [ 47 ] { | 善 行 | 愛   |
|          | 信 仰 | 恩 寵 |

- |        |   |                    |                    |
|--------|---|--------------------|--------------------|
| [ 48 ] | [ | 信仰，希望，愛<br>従順，希望，愛 | 信仰，清貧，愛<br>従順，清貧，愛 |
| [ 49 ] | [ | ソクラテス<br>新プラトン主義   | プラトン<br>アリストテレス    |

問5 アウグスティヌスとトマス・アキナスの著作の組み合わせとして最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。[ 50 ]

- アウグスティヌス『キリスト教綱要』 - トマス・アキナス『神国論』
- アウグスティヌス『告白』 - トマス・アキナス『神国論』
- アウグスティヌス『告白』 - トマス・アキナス『神学大全』
- アウグスティヌス『キリスト教綱要』 - トマス・アキナス『神学大全』

これで問題は終わりです。